



学校のぶどう園は、地域の方のご指導をいただきながら、主に1年生が担当しています。この日は始業前の涼しい時間帯に塩尻市特産ナイヤガラの傘かけをしました。収穫したナイヤガラは給食の時間に全校でいただく予定です。(広陵中学校)



- 講習・講座参加者の声… 2~4 生涯学習講座 哲学の道 ご案内… 5
信濃教育会教育研究所研究員募集… 6~7
須坂市立東中学校「プレイエルにいのちを吹き込む」プロジェクト… 8
県教育委員会との懇談会… 8 第3回土曜公開講座のご案内… 8
第35回「今を生きる子どもの絵」移動展・HP掲載のお知らせ… 9
リレー通信 わたし自慢³⁷ 剣道から学んだ生き方 木下彩香(城南小学校)… 9
100年館の絵 下島直子(伊那東小学校)… 10
会員ひろば 小淵秀徳(常盤中学校)… 10

10月の研修ガイド

- 19日(水) ●第378回諏訪季節大学会 ◎岡谷市カノラホール ◇藤原正彦(お茶の水女子大学名誉教授) ☆諏訪教育会 0266-52-0213
20日(木) ●文学講演会 ◎上伊那教育会館講堂 ◇堀井正子(近代文学研究家) ☆上伊那教育会 0265-72-3416

●名称 ◎会場 ◇演題・講師等(講師名敬称略) ☆連絡先

発達障がいのある子どもの理解と支援

専門性と連携という視点から、子の未来づくりについて学び合った一日

7月29日(金) 佐久教育会館

受講者数 オンライン94名 実行委員等18名

- 子どもそれぞれの特性を聞き、今、自分がかかわっている子どもの姿がそのままだと思い、その子を頭に思い浮かべながら話を聞くことができました。学校や家庭の環境次第で二次障がいのリスクも大きく変わってくることを知り、その子に合った対応に努めていきたいと思いました。
- 高校入試での合理的配慮について、小学校段階からの積み重ねが必要であることもわかり、中学校卒業、高校進学を見据えた小学校の先生方とのさらなる連携が重要であるということも認識できました。
- 詳細なデータや研究結果をもとに、概要を説明してくださったので、より具体的に理解することができました。発達障がいのことで、「予防的」という言葉が印象に残りました。大人になってから、困り感が大きくなり、二次障がいを伴うなど、大変な思いをすることになる前に、早い段階で気づいて対処することが本当に大切である事がわかりました。将来を見据え、早い内から自己肯定感を高くするような経験を積み重ねたり、ソーシャルスキルを身につけたりするなど、子どもたちが将来、社会人になったときにつまずくことがないように支援していきたいと思いました。



小学校外国語

講師の熱意と講義に引き込まれたオンライン研修

8月3日(水) 下伊那教育会館 (オンライン)

受講者数 オンライン60名



- 子どもの幸福感の話はとても興味深かったです。また、久しぶりに受ける小泉先生の研修でしたが、再認識すること（特にインプットの大切さ）や新しい情報もたくさんあって中学校の先生方にも聞いて欲しい話だなあと改めて感じました。

- 小学校外国語で指導するときの心がまえは、言葉は「意味を伝える道具」であること、子どもが興味をもつのは「内容」であること、聞く活動で反応する気持ちを育て

たいことなど、2学期からの授業でしっかり考えていきたいです。英語を使う実践練習での「自己紹介」の実践は、大変興味深く授業で活用したいと思います。

- 目標があるからこそ評価ができると聞き、どの教科でもその時間の目標をしっかり定めていかなければならないと感じました。忙しい中で、なんとなく授業をしてしまうことがあるので、少しずつ改善していきたいです。



信濃の国探訪

関東と結びつく佐久の産業と交通網を訪ねた暑い! 熱い! 2日間

8月3日(水)~4日(木) 小諸・軽井沢方面

受講者数 29名

- 1日目の鉄道に関する学び、夜学でつながる蚕糸産業と鉄道や小諸、宮下先生から溢れるたくさんの知と五感を伴う体験的な学び、本当に楽しい2日間でした。
- 明治の長野県を再認識しました。碓氷峠を越える馬車鉄道・アプトの道・電化された信越線・新幹線と、人々がこの鉄路にかけてきた叡智に感銘をうけました。
- 信濃の国の「蚕飼い」をキーワードに蚕糸王国を支えた人やもの、土地、風土を見学・解説していただきました。小諸が商都であり、東信の中心、長野県の入り口に当たること、明治・近代の視点から見ると文化・経済の中心であったことがよくわかりました。
- こんな近くに風穴があることにも驚きで、様々な土地の条件などが揃っていたことによって製糸業が盛んになったのだとわかりました。



旧めがね橋に至るトンネル内



小諸市「氷風穴」入り口

書写書道

「一流講師による温かな指導と充実の時間」初心者から経験者までニーズに応じて学ぶ!

8月4日(木)~5日(金) 上伊那教育会館

受講者数 38名

- 初心者で不安な気持ちで受講しましたが、講師の温かな指導により楽しく研修することができました。アドバイスや褒めていただいた言葉を、子どもたちにかけていきたいと思えます。
- 「学ぶ」とは、こんなにも楽しく嬉しいことなのかということ、自分が「教わる」側になってみて改めて感じました。講師が、確かな眼でみとり評価して下さること、クセや課題に気づかせて下さること、「材」と人間に対して「愛と



情熱」をもって教えて下さることなど、教育の中で根っことなることばかりでした。

- 年に一回筆を持つだけなので上手になりませんが、市澤先生のお話をお聞きするのが楽しみです。参加することが、自分の自信にもつながっています。充実した二日間でした。特に今回は筆ペンを導入いただき、自分の癖がわかり常識を教えてくださいいただき良い学びができました。

美術

自分と向き合う充実した時間

8月1日(月)～3日(水) 信濃教育会生涯学習センター

受講者数 30名



○裸婦を描く貴重な時間をありがとうございました。キャンバスにアクリル絵の具で着色をしました。木炭やパステルにこだわらず研修会でチャレンジできたことを嬉しく思います。

○先生方の素晴らしい作品やその制作過程に触れることができ、とても勉強になり、刺激も受けました。

○久しぶりに大きな作品を描いてみて、常に考え、悩み、選択するというのをこの3日間沢山することができました。

○1年ぶりにしっかりと絵を描ける機会を得ることができました。もっと描きたいなあと思う気持ちが湧いてきました。

○山本先生の作品を鑑賞し、形の入れ方、絵の具の選択など試行錯誤しながら取り組みました。

○3日間、自分を見つめ描き進めることができ、とても充実した時間でした。観るとということがどういうことかを考えさせられました。



理科観察・実験講習会

【東信】8月4日(木) 上田創造館

石の探究者に学ぶ

受講者数 19名

【南信】8月1日(月) 伊那市創造館

さがそう！地球からのおくりもの

受講者数 14名

【中信】8月3日(水) 松本市教育文化センター

夜空へ いち にの さんぽ

受講者数 15名

【北信】8月2日(火) 黒岩山・桂池周辺

飯山てくてくウォッチング

受講者数 20名



○鉱物のプレパラートづくりでは、専門の先生に確認していただきながら作成でき、よかったです。また、博物館の上小地区の鉱物などの展示をみて、授業の中で生徒にも紹介したいと思いました。その地域の自然について学ぶことの大切さを改めて感じました。

○地域の自然について、みんなで学び合う機会をいただいたことは、大変ありがたかった。これからも地域に学ぶ姿勢づくりに取り組んでいきたい。

○身近な山と地形など、先輩の先生方にいろいろ教えていただけて良かった。一人ではなかなか観察散策に行けないので、とても良い機会になった。



哲学の道

講演 「哲学へのいざない」—— 実在と経験

哲学の一つの大きな問いは「本当にあるもの(実在)とは何か」というものです。西田幾多郎や精神医学者の木村敏などの思想を手がかりに、この問題について考えてみたいと思います。それを通して、私たちが生きているこの現実の世界の真相に迫ってみたいと思います。拙著『哲学のヒント』(岩波新書)の第4章「実在——「もの」と「こと」と第5章「経験——生の「脈動」に触れる」か、あるいは『はじめての哲学』(岩波ジュニア新書)の第6章「ほんとうにあるもの」に予め目を通していただくと、よりよくご理解いただけるかと思えます。(藤田先生からのメッセージより)

講師 藤田 正勝 先生 / 京都大学名誉教授

藤田先生は来館される予定です。



講師プロフィール

1949年生まれ
1982年西ドイツ・ポーフム大学大学院博士課程修了、博士号取得
京都大学名誉教授
《著書》
「若きヘーゲル」(創文社)1986年
「西田幾多郎 生きることと哲学」(岩波書店)2007年
「哲学のヒント」(岩波新書)2013年
「九鬼周造——理知と情熱のはさまに立つ(ことば)の哲学」(講談社)2016年
「人間・西田幾多郎——未完の哲学」(岩波書店)2020年
「はじめての哲学」(岩波書店)2021年
その他

令和4年10月15日(土)

9:10~12:00(受付8:50~)

信濃教育会生涯学習センター講堂

“同時にオンラインによる配信”

＜お問い合わせ・お申し込み＞

信濃教育会生涯学習センター

〒399-8204 安曇野市豊科高家796-3

TEL 0263-72-9991/026-232-5201(教科用図書研究部)

FAX 0263-72-9985/e-mail center@shinkyo.or.jp

電話・FAX・e-mailで、住所・氏名・電話番号とオンライン講座参加の有無をお知らせください。



* 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、生涯学習センターでの受講人数を制限させていただきます。上限40名、先着順とさせていただきます。受付は9月15日より開始いたします。必ずお申し込みの上ご参加ください。感染防止の対策(マスクの着用、手指の消毒)にご協力をお願いいたします。

* より多くの皆さんに受講していただくために、当日はオンラインによる参加も計画しております。希望される方は、事前にパソコンにzoom環境を整えておいて下さい。お申し込みの際にお知らせいただければ、追ってIDとパスワードをお知らせいたします。

【個人情報の取り扱いについて】 申込書に記載される個人情報は『公益社団法人信濃教育会個人情報管理規定・個人情報保護に関する方針』に基づき、本講座のために使用するものであり、その他の使用は一切ありません。



新たな出逢いと感動

そして 学びの楽しさあふれる 信濃教育会 教育研究所へ！



教育研究所での三つの学びと感動

新しい教育の実践者・研究者に学ぶ感動を！

☞ 各自のテーマに応じた先進校・実践校視察研修, 大学での研修, 公開研究会等への参加

実践の「振り返り」と講師・同僚との「学び合い」から「納得」の感動を！

☞ 自らの実践を通じた考察と新たな知見を探る, 省察を深め見識を広げる所長・特任所員との講義や対話
学校では経験できない学びを広げていく感動を！

☞ 幅広い見識と人とのつながりを築く, 土曜公開講座の企画運営, 学校外の人との交流

教育について講師や仲間と考え合い, 希望ある未来を描く



1年次は、テーマ研で相互に学び合い、講師との対話を通して、自己の課題を明確にし、研究を焦点化していきます。



第1テーマ

教師と子ども, 子ども相互の関係づくり

第2テーマ

子どもの学びが深まる授業づくり

第3テーマ

今日的な課題に対応する多様な学び



2年次は、これまでの研究内容を報告したり、実践事例をもち寄り、共同で検討したりして、さらに学び深めます。



子どもの気持ちに戻ったように、体をゆるめて、「学び」に浸る豊かさがあります

一流のスタッフと共に教育を学び深める贅沢な時

所長・特任所員との贅沢な学びの時間は、教育の不易なるものから最新事情までを学び、世界の見え方が変わります。また、新たなことに挑戦するマインドと行動力を育成する為、先進校・実践校視察、特任所員への随行研修、公開研究会へ参加し、教育を学んでいきます。



所長
佐伯 胖氏
東京大学・青山学院大学
名誉教授



特任所員
松木健一氏
福井大学
理事・副学長



特任所員
岩川直樹氏
埼玉大学教授



特任所員
奈須正裕氏
上智大学教授



特任所員
高柳充利氏
信州大学准教授

土曜公開講座

「土曜公開講座」を開催し、広く全ての学校現場の先生方を対象として、講話や参加者の授業実践等を通して学び合うとともに、教育研究所と学校現場との交流を深めます。

研究員の生活

贅沢な学びの一年間。「研究所」での生活をざっとお知らせします！「研究所」について語り合った会話をAIで視覚化しました。「研究所」の良さがこの言葉に詰まっています！

- 8:30 出勤 1日の始まりは各自朝読書から
- 9:00 朝礼 仲間と共に読み合わせ
- 9:30 各種研究・研修



〈佐伯所長〉

所長・特任所員による講話
〈1対6の贅沢！！〉
あの子の思いは本当のところ
「DND（どうなんだろう？）と
その子になってみるのだ！

個人研究・テーマ研究・会長講話・授業参観・
実地研修・自分と向き合うゆったりした一日

- 12:00 昼食 所員・仲間と食堂で一息
- 13:00 各種研究・研修（自分たちで学びを創る）
- 17:00 終礼 おつかれさま～
- 17:15 退勤（働き方改革実施中！）

家族や自分の時間も大切に！定時退勤！
明日はどんな「いいことを思いつく」かな？

行こう！教育研究所へ！【随時見学自由！！】

「学びつてやっぱりおもしろい！」



〈自分の研究を深めるために実習校へ！〉



〈信州教育を熱く語る武田会長〉 〈佐伯所長とのテーマ研究会〉



詳しい内容について知りたい方は
信濃教育会 HP へ今すぐチェック



「プレイエルにいのちを吹き込む」プロジェクト 須坂市立東中学校の生徒が信濃教育会を訪れました。

8月31日（水）須坂市立東中学校の生徒が信濃教育会を訪れ「プレイエルにいのちを吹き込む」プロジェクトで、職員に募金協力を呼びかけました。約100年前に製造され、実業家の山岸右京さんより昭和33年に寄贈されたフランスプレイエル社製ピアノ。ここ20年ほどは部品が破損したり鍵盤が傷んだりして校舎一階のホール隅に置かれていたようです。ピアノの修繕が叶った後には、文化祭でピアニスト山本貴志さんをお招きしての演奏会を計画しているそうです。全校生徒で取り組むこのプロジェクト。生徒の熱い思いを感じ、その後信濃教育会の職員から5万円余りの募金が集まりお贈りいたしました。再び東中学校にプレイエルの美しい音色が響いてほしい、そんな思いでいっぱいになりました。



県教育委員会とともに力を合わせて ～8/22（月）県教育委員会との懇談会～

教員志願者の減少傾向のなか教員の魅力やよさを若い世代に伝える取組みや主体的な研修となるための教員研修や校内研修のあり方等、多岐にわたり意見交換を行いました。

武田会長より

県教育委員会と信濃教育会とは、その時代、その時々で様々な関係があった。時代が大きく変わる今この時に、長野県教育を充実させる、子どもたちや県民の皆さんがよりよい人生を歩んでいくその願いは共通の思いだ。互いにやりやすいこと、できることとやりにくいこと、できないことがありますから共に力を合わせていきたい。



第3回土曜公開講座



令和4年 **10月22日**（土） 10:00～12:00

Zoomによるオンライン形式

講師：**岩川 直樹**（特任所員・埼玉大学教授）

申込み QR コード



テーマ：『**子どもをみる・語る教師**』

※詳細は信濃教育会教育研究所 HP に掲載します

第35回「今を生きる子どもの絵」 移動展・ホームページ掲載のお知らせ

信濃教育会生涯学習センターにおいて、令和3年度の「今を生きる子どもの絵」に選出された小学1年生から中学3年生の作品148点を展示します。

と き 令和4年9月30日(金)～10月6日(木)
9:00～17:00(最終入館16:30)
ところ 信濃教育会生涯学習センター
(安曇野市豊科高家796-3)
その他 入場無料/期間中無休
新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、
予定が変更になる可能性があります。
最新の情報はホームページをご確認ください。



作品は展示後、令和4年11月1日から2ヶ月ごと、6回にわけて信濃教育会ホームページに掲載いたします。
なお、現在は令和2年度永年保存作品を掲載中です。ぜひご覧ください。



わたし自慢 ③7

剣道から学んだ生き方

城南小学校 木下 彩香



私が剣道と出会ったのは、中学生の時だった。中学校に入学したばかりの4月、部活見学のために友人たちと学校を歩き回っていると、「メーン！」と迫力のある声が聞こえてきた。当時の私は全く運動部に入る気はなく、文化部の活動場所に向かっていたのだが、気迫のこもったその声に興味を惹かれ、武道場に向かった。そこで活動していたのは剣道部だった。胴着袴に防具を着けて姿勢良く立つ姿や、正座して顧問の話聞く姿、どれをとってもカッコよく、私はすぐに入部を決めた。

剣道では「心・技・体」の3つがそろって初めて一本が決まる。「心」は、一本決めるといふ気迫。「技」は、正確な打突。「体」は、残心を伴う体裁き。そしてこれらを身につけるためには、日々己の過ごし方を見つめなさいと教えていただいた。道場には一礼をして入り、練習前後には必ず全員で掃除

をした。試合では決して強い部ではなかったが「勝ってもおごらず、負けてもくさらず」の指導のもと、全力で剣道に打ち込んだ。

運動が得意と言えない私が3年間剣道をやりきることができたのは、日々の積み重ねが自分を作るという考え方や、礼儀を大切にする凜とした雰囲気、身を置くのが心地よかったからなのだと思う。教員として働く今も、剣道部で学んだ心構えは生きているし、生かせると感じている。また、剣道に没頭した3年間の経験は、今後私が進むべき道に迷ったときに、方向を指し示してくれるものになるだろう。



予告



第一三六回 信濃教育会総集会

学校の近くの公園にD51があります。秋に、画用紙とコンテを持って描きに行きました。「大きいね」「どの線路を走っていたのかな」「わたしも乗れたかったな」D51へのいろいろな思いをふくらませて、描き始めました。大きさ、重々しさが表せるように、「じーんと大きく、どっしり」とだけ声をかけて、あとは子どもたちに任せました。

爽月さんは、とても感性が豊かで、物事をじっくり見つけることができま す。D51を、どの角度から見ても描くか、どこから描くかを自分で決めて、もくもくと取り組んでいました。黒いD51を、濃さや色を工夫してのびのびとぬっていました。題名にもあります が、D51に乗っているみんなの歓声が聞こえるようです。

指導者 下島 直子 (伊那東小学校)

100年館の絵

令和3年度 永年保存作品
今を生きる子どもの絵



「みんなをのせてはしったD51」

保坂 爽月 (伊那東小2年)

信濃教育博物館所蔵

会 員 ひ ろ ば

未来へつなぐ 木彫校歌額

令和2年度の常盤祭で、当時の校友会(生徒会)役員が「コロナ禍の今だからこそできることを」と考え、「様々な制限がある中での学校生活と校友会活動に精一杯取り組んでいる思いを形に残したい」「常盤中が大切にしている校歌にかかわる制作を自分たちの手で行いたい」という願いから、全校371名で、一人一枚一文字ずつ刻んで墨入れを行って完成しました。

あれから2年、いまだ全校揃っての校歌合唱はできていませんが、異学年2クラスによる合同合唱発表「絆コンサート」や、距離をとったり中庭を使ったりしての合唱練習など、常盤の合唱の魂は脈々と生きています。いつか一堂に会して思い切り校歌を響かせることができるその日を、この校歌額は静かに音楽室横で待っています。

(常盤中学校 小淵秀徳)



教職員川柳

大本命 運動会で くつ脱げる
減らないよ 感染者数と 仕事量
黒柳 祐津子
水上由 好投光る オールスター
赤ちようちん
新学 担任ガチャは 「当たり」かな? 応援団
四蔵法師
ご応募お待ちしております。

投稿はメールでお願いいたします。kaihou@shinkyo.or.jp

「信濃教育会報」カラー版は信濃教育会ホームページの「会員のページ」でご覧いただけます。

